

ゴム床のメンテナンスレポート

床材の性質

- 弾力性がある。
- 耐摩耗性に優れる。
- 吸い込みはほとんどない。
- 紫外線等により、徐々に退色や劣化を起こす。
- 樹脂ワックスの密着性に劣る。
 - ※凹凸のある軟質タイプ(ノンスリップタイプ)のものには、樹脂ワックスがはじいたり密着しないものがある。
- 耐洗剤性に劣るものがある。
 - ※アルカリ性のハクリ剤により変色するものがある。

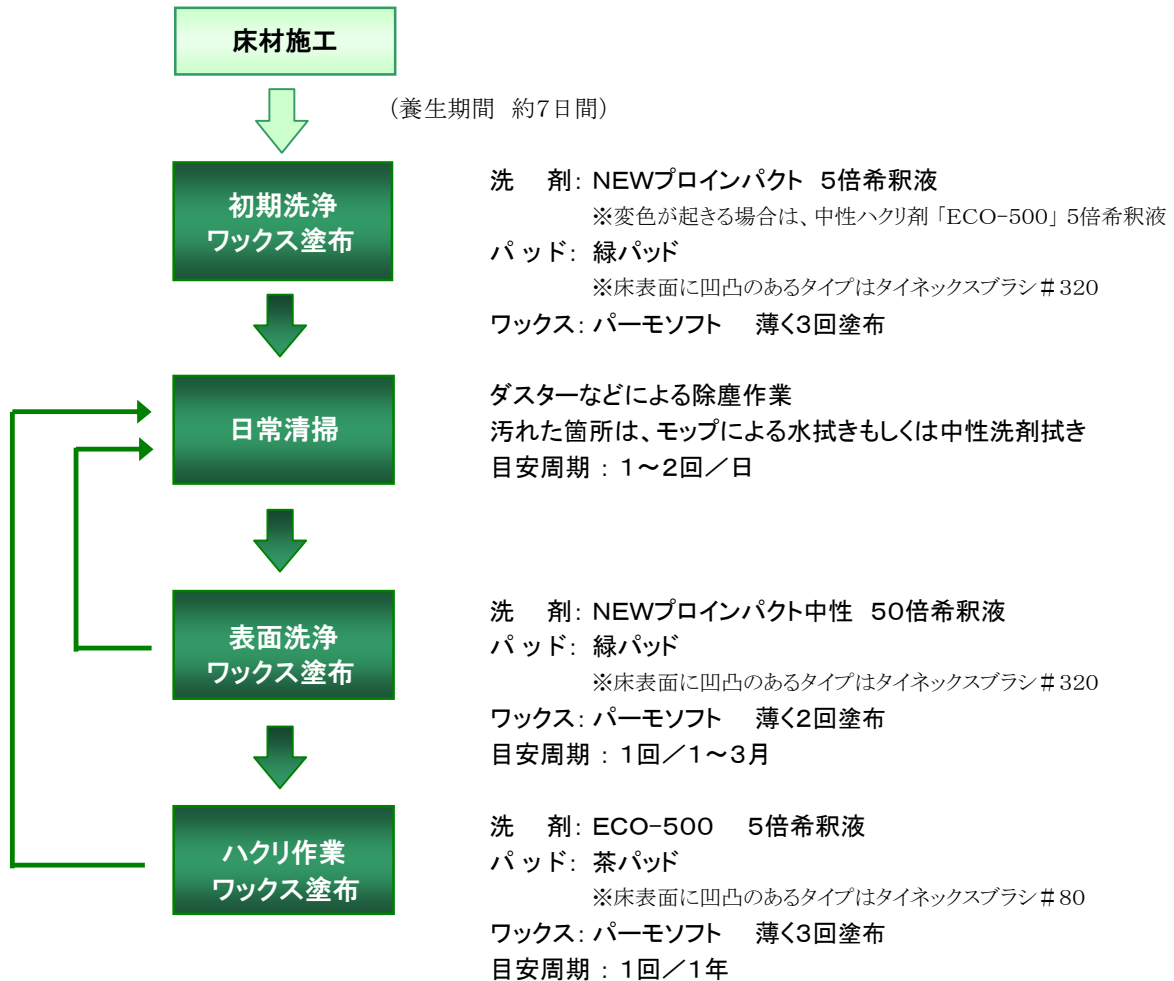
メンテナンスポイント&注意点

ゴム床は吸い込みが少なく、床材に含有する劣化防止剤(パラフィンなど)の表面移行が多いことから、塗布時に樹脂ワックスのハジキが起きたり、密着不良を起すことがあります。そのため、初期洗浄では表面移行した劣化防止剤を完全に除去しなければなりません。また、ゴム床は弾力性が高いため、樹脂ワックス皮膜が厚くなり過ぎると、割れや剥がれが生じる場合があります。そのため、樹脂ワックスは高濃度タイプのは避け、ある程度柔軟性のある樹脂ワックスを選定し、皮膜を薄く保持するよう維持管理します。

なお、ゴム床の中には、初期洗浄の際に強めの洗浄を行っても、樹脂ワックスがはじいたり密着しないものもあり、このようなゴム床は樹脂ワックスが使用できませんので、定期的な洗浄によるメンテナンスで維持管理します。

また、ゴム床の中にはアルカリ性のハクリ剤で変色するものもあるので、ハクリ作業の際は中性ハクリ剤を使用します。

メンテナンスサイクル例



メンテナンスポイントおよび作業方法

初期洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 床材施工後の養生期間を置いてから、本作業を行います。
- 床材表面に床材施工に用いた接着剤跡がある場合は、きちんと除去します。
- 引き渡し清掃などで既にワックスが塗布されている場合は、密着テストを行い、もし密着していない場合は、ハクリ作業を行ってからワックスを塗布します。
- 床表面に移行した劣化防止剤(パラフィンなど)を除去するため、下記の洗剤やパッドを使用します。
- 洗剤の希釈を濃くして使用するので、洗浄後(汚水回収後)は水洗浄を行います。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- 柔軟性があり皮膜の割れや剥がれが起きにくく、中性ハクリ剤でハクリ可能な半樹脂ワックスを塗布します。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

＜ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用＞

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

養生

＜養生マスキングを使用＞

- ・必要に応じ、養生マスキングを用い、什器などが汚れないように養生します。

洗剤塗布

＜洗剤用モップ、床洗剤(NEWプロインパクトなど)を使用＞

- ・NEWプロインパクトを5倍に希釈し、洗剤用モップで塗布し、約5分間放置します。
- *NEWプロインパクトでゴム床が変色する場合は、「ECO-500」5倍希釈液を使用します。

洗浄

＜ポリッシャー、緑パッドを使用＞

- ・ポリッシャーにパッドを取り付け、かけムラの無いよう丁寧に洗浄します。
- *床表面に凹凸のあるタイプは、タイネックスブラシ # 320を使用します。
- *ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗います。

汚水回収

＜吸水バキューム、フロアスクイジーを使用＞

- ・洗浄後は、速やかに洗浄汚水を回収します。
- ・壁際やコーナー部の汚水は、フロアスクイジーを使用します。

水洗浄 → 水拭き

＜ポリッシャー、給水バキューム、水拭き用モップを使用＞

- ・ポリッシャーで水洗浄を行い、給水バキュームで汚水を回収します。
- ・床面が乾燥する前に、水拭き用モップで2回水拭きします。
- *面積の広い現場では、自動床洗浄機による水洗浄が効果的です。
- *モップが汚れたら、早めに交換します。

乾燥

＜送風機を使用＞

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。

樹脂ワックス塗布

＜ワックス用モップ、半樹脂ワックス(パーモソフト)を使用＞

- ・ワックス用モップで半樹脂ワックスを均一に塗り残しの無いよう薄く塗布します。
- *塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行ないます。

乾燥

＜送風機を使用＞

- ・送風機を用い、床面を乾燥させます。
- *塗布直後(ワックスが濡れているうち)は、直接床面に風は向けず、最初は上に向けてワックスが乾きだしてから徐々に床面に向けていきます。

日常清掃

ポイント

- 帯電モップは帯電剤が床面に移り、汚れの原因となることがあるので使用は避けます。
- ヒールマーク汚れは、モップなどで擦り落とします。
- 洗剤を使用する場合は、樹脂ワックスに影響のない中性洗剤を使用します。
- 雨天日は、雨水による汚れや滑りによる転倒防止のため、雨天時用マットを設置し、持ち込まれた雨水や土砂は早めに取り除きます。
- 広い面積の現場は、自動床洗浄機による洗浄が効果的です。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

<ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用>

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

モップ拭き

<水拭き用モップ、必要に応じ中性洗剤(NEWプロインパクト中性など)を使用>

- ・汚れた箇所やヒールマーク汚れは、モップで拭き取ります。
- *油汚れが多い現場は、中性洗剤(NEWプロインパクト中性 50倍希釈)を使用します。

表面洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 光沢の低下や汚れが目立ってきたら、本作業を行います。
- 洗剤を希釈する際は、計量カップなどを用い正しく希釈します。
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗いします。
- ポリッシャー洗浄でも落ちないヒールマーク汚れは、ハンドパッドで擦り落とします。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- 柔軟性があり皮膜の割れや剥がれが起きにくく、中性ハクリ剤でハクリ可能な半樹脂ワックスを塗布します。
- 半樹脂ワックス(パーモソフト)は洗剤と反応しやすいため、アルカリ性洗剤を使用すると、ワックスがムラに取れてしまうことがあるので、洗浄の際は中性洗剤を使用します。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。

作業手順



ハクリ・ワックス塗布作業

ポイント

- ゴム床はアルカリ性ハクリ剤で変色することがあるので、中性ハクリ剤を使用します。
- ハクリ作業を行わない場所との境や、什器下に汚水が流れ込んでしまう場所は、養生マスキングで養生します。
- ハクリ剤は、乾かないよう多めに塗布します。(乾いたら再塗布します。)
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗いします。
- ハクリ後(ポリッシャーがけ後)の汚水は素早く回収し、床面が乾く前に水を撒き水洗浄を行います。
※中性ハクリ剤を使用しても若干黄変することがあります。汚水回収後、直ちに水洗浄を行うと黄変は軽減されます。
- 巾木に付着したハクリ汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。
- 柔軟性があり皮膜の割れや剥がれが起きにくく、中性ハクリ剤でハクリ可能な半樹脂ワックスを塗布します。

作業手順

